

令和2年度学校給食地場産食材使用状況調査の結果について

○ 調査対象等

(1) 調査対象

県内公立小中学校の全ての学校給食施設 **159施設**

(2) 地場産食材使用率算出方法（食品数ベース）

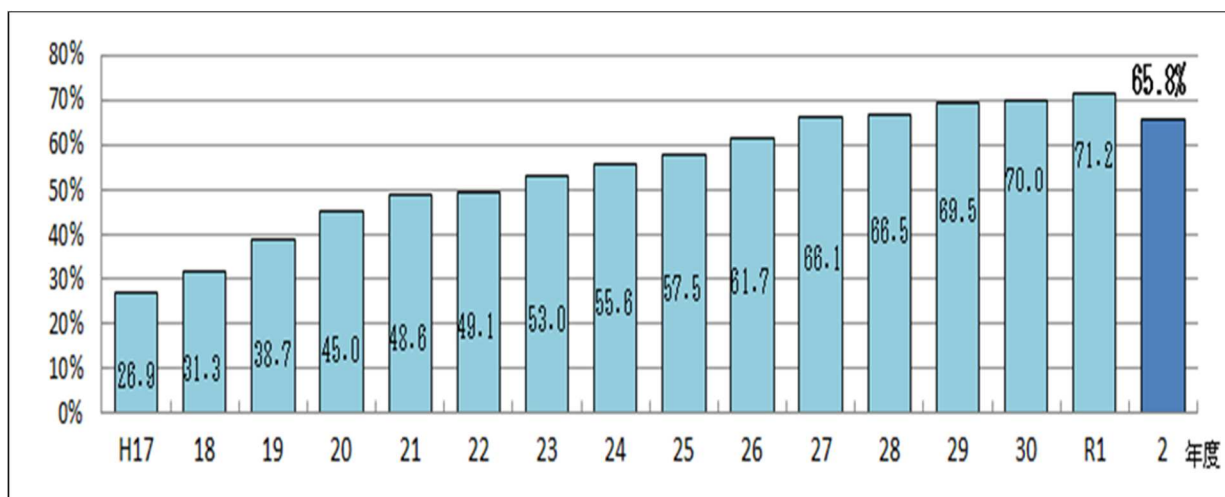
使用率（%）＝（山口県産食品数 ÷ 全使用食品数）× 100

(3) 調査期間

各学期において県教委が任意に指定した5日間（計15日間）

○ 調査結果の概要

(1) 地場産食材使用率 65.8%（対前年度比 5.4ポイント減）



(2) 食品分類別の地場産食材使用率

食品分類	使用率 [前年度比 (ポイント)]	食品分類	使用率 [前年度比 (ポイント)]
牛乳・乳製品	97% [±0]	その他野菜類	60% [-9]
穀類	93% [±0]	魚介類	63% [-11]
豆類	72% [-7]	緑黄色野菜類	63% [-3]
果実類	78% [+5]	きのこ類	56% [-11]
獣鳥肉類	71% [-11]	いも及びでんぷん類	34% [-3]

(3) 各市町における地場産食材使用率

使用率	市町数	市町名
70%以上	13	宇部市、山口市、萩市、下松市、長門市、柳井市、 美祢市、山陽小野田市、周防大島町、上関町、 田布施町、平生町、阿武町
70%未満 40%以上	6	下関市、防府市、岩国市、光市、周南市、和木町

(4) 市町の主な取組事例

市町名	取組事例等
萩市	○毎月、山口県農業組合萩統括本部、山口県漁業組合萩支店、萩市農政課、水産課、各学校栄養教諭、栄養士、給食主任等が集まり、1時間程度の情報交換会（定例会）を開催している。同会では各担当者から、地場の農水産物の価格、出荷量などの情報提供が行われている。このことにより、新鮮で安価な食材の確保等ができ、地場産食材使用率の向上につながった。
柳井市	○柳井市学校給食協力会と連携し、県産野菜の納入等について情報共有を行なった。その情報をもとに地場産食材の使用を100%達成することを目標に献立作成を行った。 ○当給食センターのその年度に使用する物資を、物資選定と見積入札を行って「年間使用食材の一覧表」に登録しておくことで、献立に使用しやすいようにした。
阿武町	○納入業者と連絡を密に取り合い、旬の時期に合わせて、地域でとれる食材を使うなど、献立作成を工夫した。